

ナタネガイ

Punctum amblygonum (Bartsch)
異総目・ナタネガイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

最近福井県で生息が確認された種であるが、特殊な環境に生息し、生息環境が限定され、生息個体数は少ない。分類学的研究が不十分であり、今後の動向に注意を要する。

分布

本種は、本州、四国に分布する。福井県では大型開発建設工事の環境アセス業務で確認され、奥越、南越山地の落葉広葉樹林の落葉やれきの裏に付着している。

種の特徴

殻は低平で、殻高 2 mm、殻径 3 mm、螺層 4 層の微小貝。茶褐色から黒褐色の螺層はよく膨らみ、縫合は深く、周縁は円い。殻表には強弱の成長肋がやや規則的にある。臍孔は広く深い。

生息を脅かす要因

山地の谷等日陰になる湿潤な森林内に生息することから、植林地の間伐、林道建設や、近年増加したシカの下層植生の食害やイノシシの掘り返し等の林床の乾燥化が生息環境の劣化に繋がることが想定される。

参考文献 世界文化社 (1986)、東 (1982)、松村 (2001)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

タカキビ

Trochochlamys praealta (Pilsbry)
異総目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本種は微小で目立たない種であり、確認地でも生息密度が低く見落とされやすい。今後の動向に注意を要する。

分布

本州及び九州に分布する。県内では県下一円に広く分布する。

種の特徴

殻高 3.5 mm、殻径 2.5 mm 程度。殻は光沢のある淡黄褐色で、薄質で半透明である。山地の落葉下に生息する。

生息を脅かす要因

山地の谷等日陰になる湿潤な森林内に生息することから、植林地の間伐、撤出林道建設や、近年増加したシカの下層植生の食害やイノシシの掘り返し等の林床変乾燥化が生息環境の劣化に繋がることが想定される。

参考文献 世界文化社 (1986)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1982)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○

ヒメハリマキビ

Parakaliella pagoduloides (Gude)
異総目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

微小貝であり希少種。平野部の山麓帯で確認されているが、生息地が限定され、生息確認地の縮小と生息密度が低い。

分布

本種は関東から中国、四国に生息する。県内では平地から標高 700m までの里山の自然度の高い杉・落葉広葉樹混交林にみられる。県内でも平野部の山麓帯に分布する。

種の特徴

殻高 1.8 mm、殻径 2.5 mm、螺層 5/2 層の微小種。淡い栗褐色の殻は螺塔が高く、殻頂の丸い円錐形。体層周縁は丸く、殻表は絹状光沢。軟体部は青みがかった暗黒色。頭部や触角は黒色。乾燥気味な腐葉土の堆積した環境に生息する。

生息を脅かす要因

本種は林道開発や森林間伐や大型林道開発・改修や増加した鹿の食害等による生息環境変化が生存の脅威となっている。

参考文献 野村・高橋 (2008)、東 (1982)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○